

人口ビジョン

THE FUTURE VISION
OF CHANGES IN POPULATION

(案)

武蔵野市

平成27年 月

目次

1	武蔵野市人口ビジョンの位置づけ	1
2	人口の分析	1
	(1) 人口動向分析と将来人口推計	1
	①総人口	1
	②年齢3区分別人口	3
	③自然増減・社会増減	3
	④人口移動	5
	⑤世帯数	7
	⑥昼間人口	9
	(2) 人口問題に対する基本認識	11
3	人口の将来展望	12
	(1) 将来展望の基礎となる市民意識調査	12
	(2) 目指すべき将来の方向	13
	(3) 人口の将来展望	14

1 武蔵野市人口ビジョンの位置づけ

武蔵野市人口ビジョンは、武蔵野市における人口の現状を分析し、人口に関する地域住民の認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するものである。この人口ビジョンは、武蔵野市まち・ひと・しごと総合戦略において、基本目標と基本的方向の実現に向けて、効果的な施策を企画立案する上で重要な基礎と位置づけるものとする。

人口ビジョンの対象期間は、市の最上位計画である第五期長期計画・調整計画の基礎資料として作成した「[武蔵野市の将来人口推計](#)」の推計期間に合わせ、平成 57 年（2045 年）までとした。

なお、国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計（平成 52 年（2040 年）まで）及び内閣官房（まち・ひと・しごと創生本部事務局）と経済産業省が提供する「地域経済分析システム（RESAS（リーサス））」を併用して分析している。

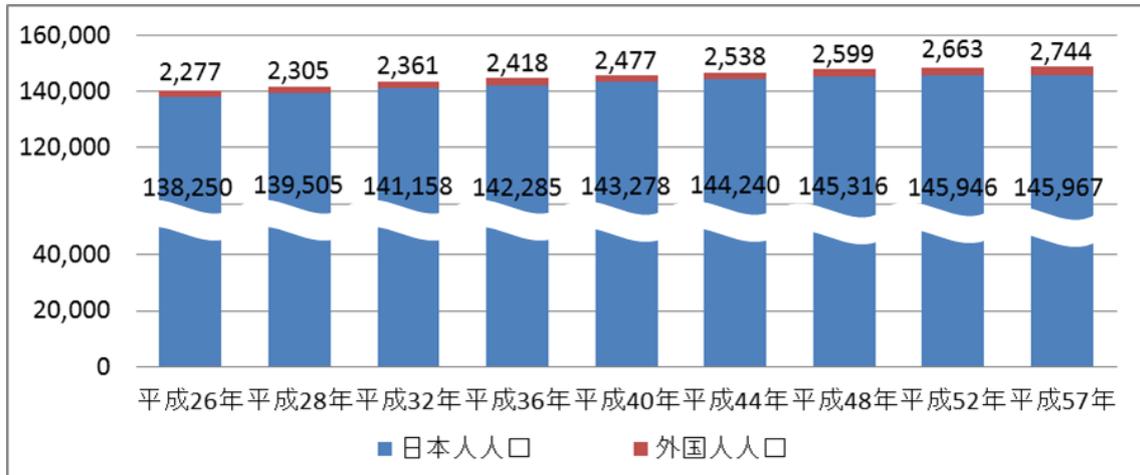
2 人口の分析

（1）人口動向分析と将来人口推計

①総人口

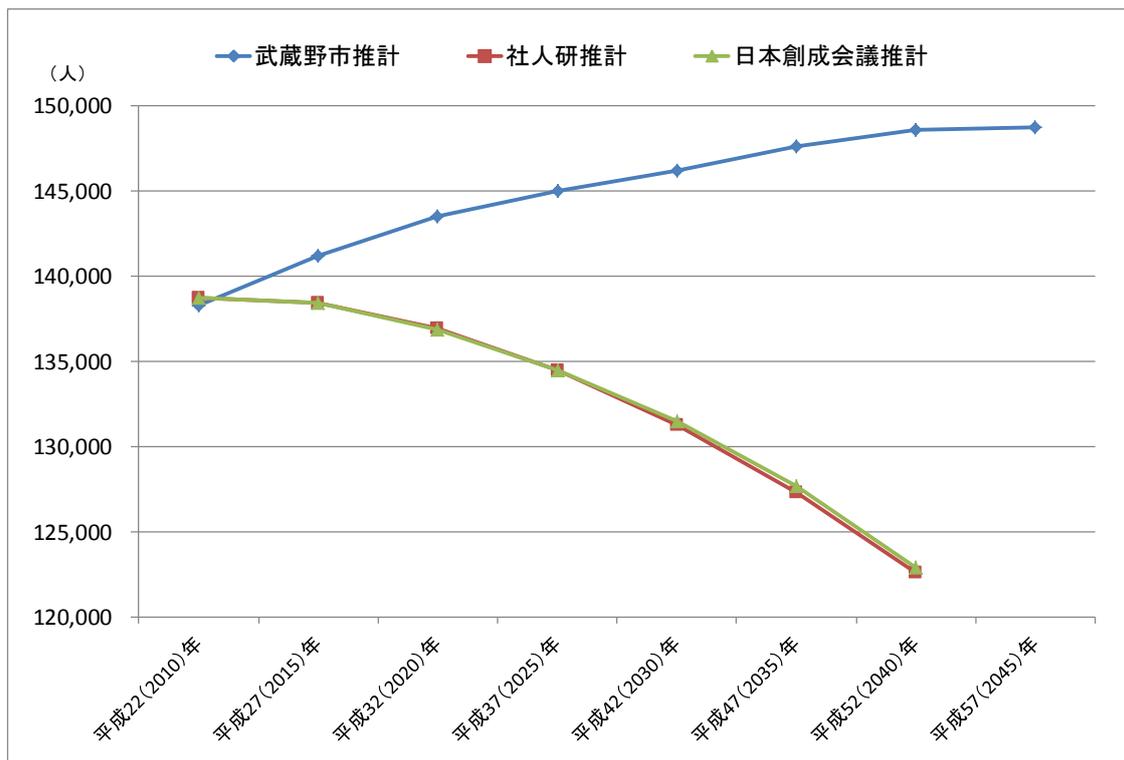
- 昭和 40 年以降の武蔵野市人口は 13 万人台で増減してきたが、「武蔵野市の将来人口推計」の基準年次とした平成 26 年には、これまでで最大の 140,527 人（うち日本人人口 138,250 人）に達した。
- 近年の大規模開発による人口流入の波及効果によって、当面は横ばいから微増で推移し、平成 55（2043）年に 148,750 人（うち日本人人口 146,043 人）に達する。その後は緩やかな減少基調となり、推計の目標年次の平成 57（2045）年には 148,711 人（うち日本人人口 145,967 人）になると見込む。
- 図表 2 の武蔵野市の将来人口（推計比較）において、武蔵野市推計と、社人研推計及び日本創成会議推計に大きな差が生じている。これは、武蔵野市推計が平成 26 年 1 月 1 日の住民基本台帳人口（日本人）を基準にしているのに対し、社人研推計及び日本創成会議推計は、平成 22 年国勢調査に基づいているため、近年の大規模開発による人口増が反映されていないことがその理由である。

図表 1 武蔵野市の将来人口（総人口）



出典) 武蔵野市「武蔵野市の将来人口推計（平成 26 年～平成 57 年）」

図表 2 武蔵野市の将来人口（推計比較）



出典及び注記) 武蔵野市推計：武蔵野市の将来人口推計（平成 26 年～平成 57 年）

※平成 22 年から平成 26 年までは実績値

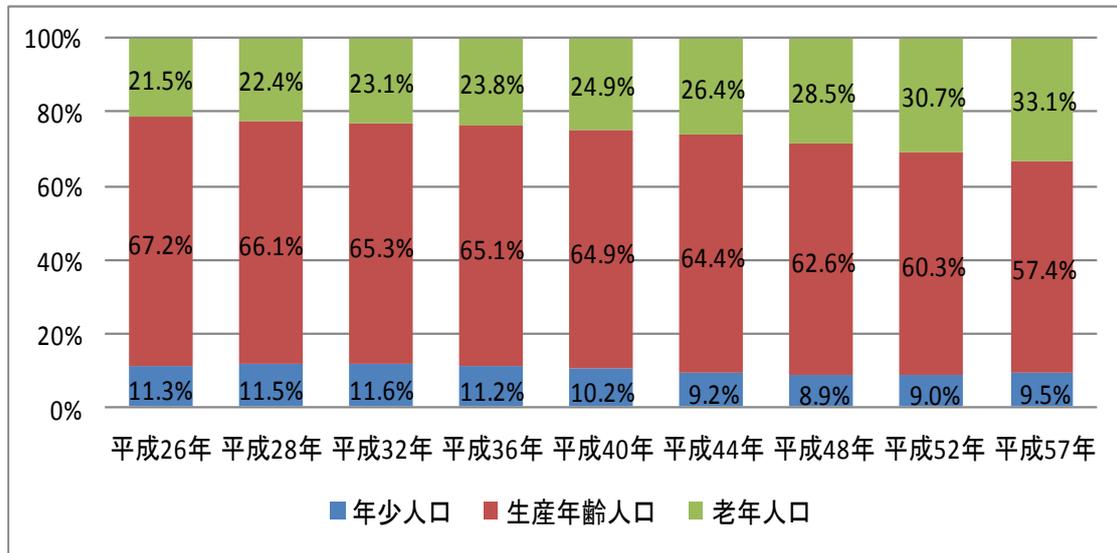
社人研推計：全国の移動率が今後一定程度縮小すると仮定した推計（社人研推計準拠）

日本創成会議推計：全国の純移動数が、平成 22 年から平成 27 年の推計値と概ね同水準でそれ以降も推移すると仮定した推計（日本創成会議推計準拠）

②年齢3区分別人口

- 老年人口（65歳以上）は増加傾向が続き、平成51（2039）年に30%（44,019人）を突破し、平成57（2045）年には33.1%（48,338人）に達すると見込まれる。
- 年少人口（0～14歳）は、当面微増した後、平成49（2037）年に8.9%（12,909人）まで低下する。その後、再度上昇に転じ、平成57（2045）年には9.5%（13,838人）まで回復すると見込まれる。
- 生産年齢人口（15～64歳）は、微減微増を経ながらも期間全体を通じては漸減傾向にあり平成57（2045）年には57.4%（83,791人）まで低下すると見込まれる。

図表3 将来年齢3区分人口比率



出典) 武蔵野市「武蔵野市の将来人口推計（平成26年～平成57年）」

③自然増減・社会増減

- 武蔵野市の人口の増減は、自然増減よりも社会増減の影響を大きく受けている。
- 自然動態¹は微増となっているものの、平成17（2005）年以降は社会動態²の増の傾向が続いており、これが近年の人口増の要因となっている。
- 武蔵野市の合計特殊出生率は、平成25（2013）年に1.14人となり上昇傾向にあるが、全国平均から比べると依然として低い水準である。

¹ 出生と死亡による人口の動き：自然増減＝出生児数－死亡者数

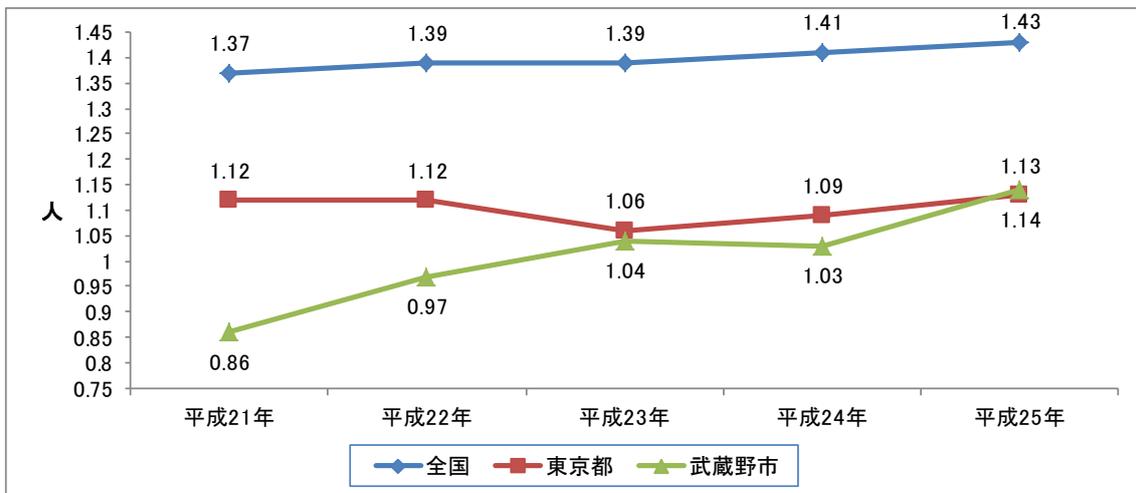
² 転入と転出による人口の動き：社会増減＝転入者数－転出者数

図表 4 自然増減・社会増減の推移



出典) 地域経済分析システム (RESAS)

図表 5 合計特殊出生率の推移

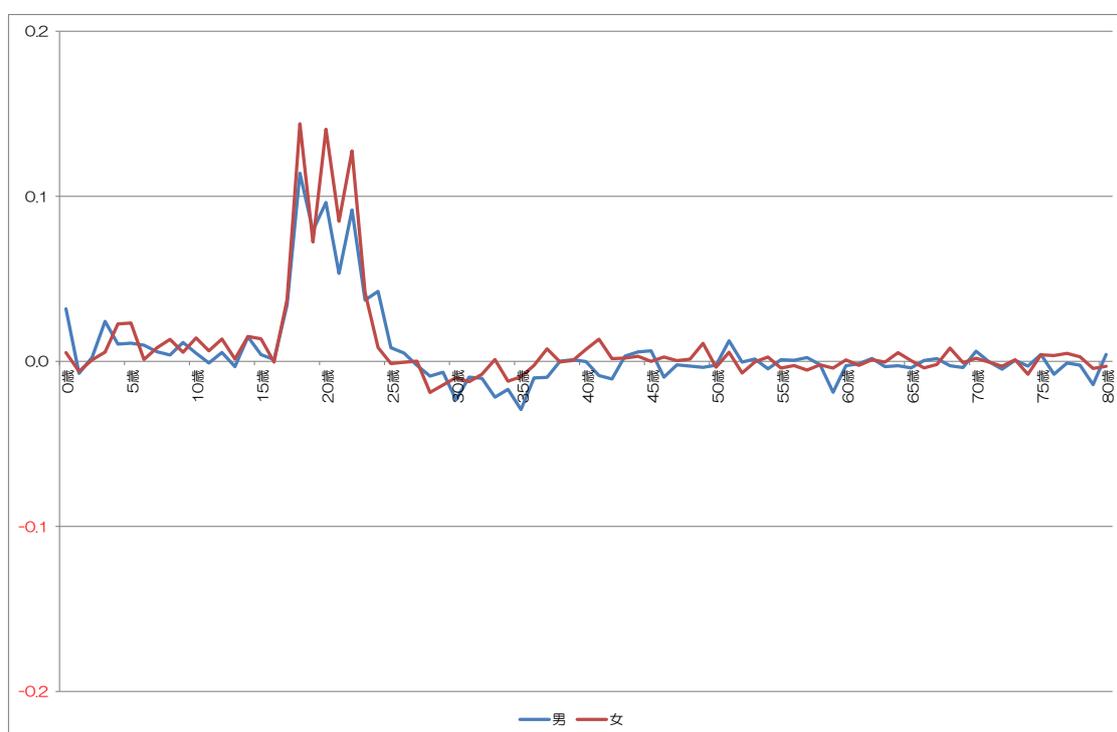


出典) 厚生労働省、東京都、武蔵野市資料等より作成

④人口移動

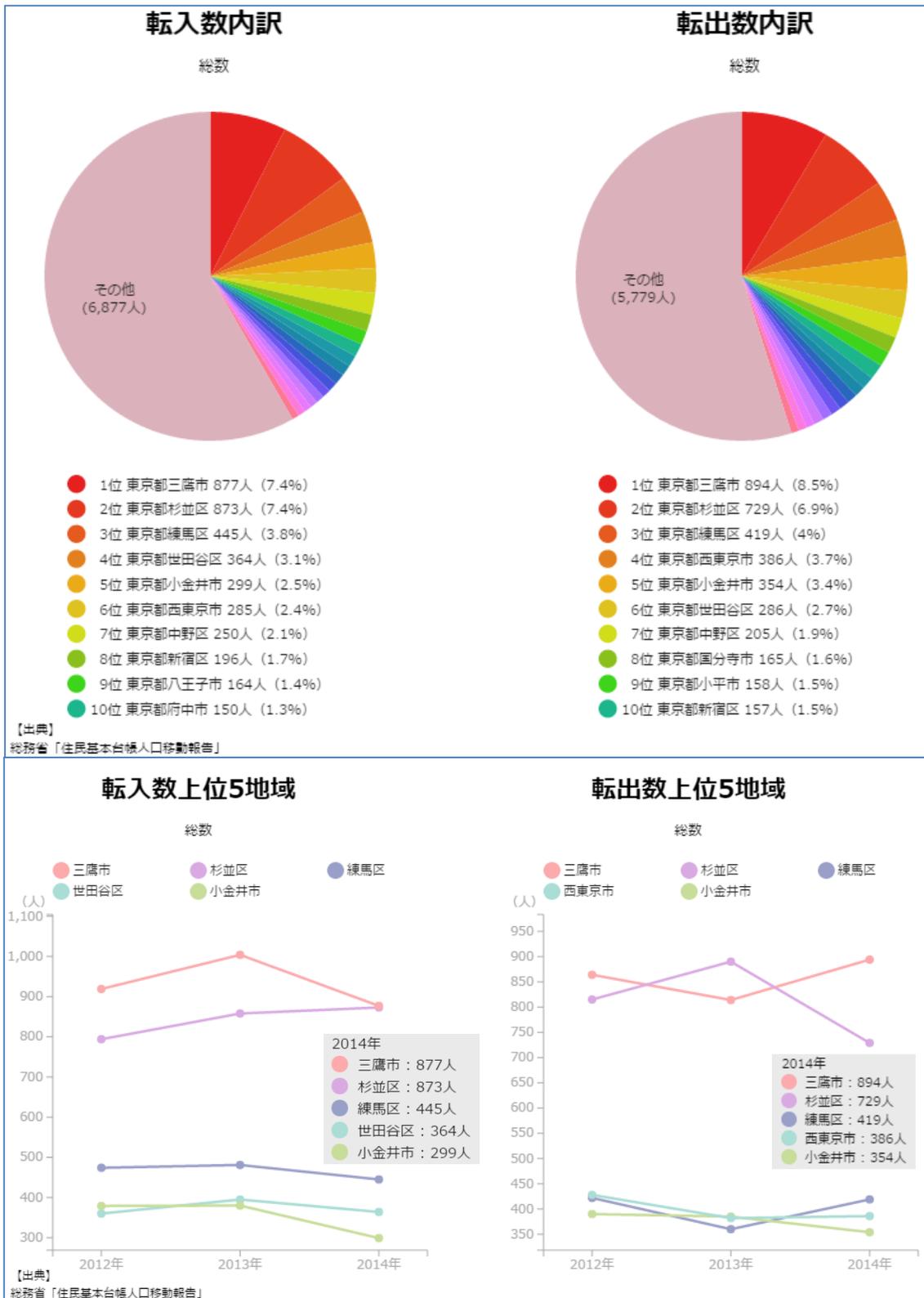
- 武蔵野市の人口移動は、18～22歳に大きく転入超過となっている。これは、大学などの進学や就職によるものと推測される。
- 一方、20歳代後半から30歳代後半については、転出超過となっており、結婚や住宅購入などに伴う転出と推測される。
- 地域間の人口移動については、転入・転出ともに都内、特に隣接自治体間の移動が多くを占める。

図表 6 性別年齢別純移動率（平成 21 年～平成 25 年の期間平均）



出典) 武蔵野市「武蔵野市の将来人口推計（平成 26 年～平成 57 年）」

図表7 武蔵野市 From-to 分析 (定住人口) 2014年



出典) 地域経済分析システム (RESAS)

⑤世帯数

- 世帯数は増加基調にあり、昭和 60 (1985) 年に 51,434 世帯だったところ、平成 22 (2010) 年には 71,163 世帯となっている。今後も世帯数は増加を続けるが、平成 52 (2040) 年の 78,524 世帯をピークとして横ばいとなり、平成 57 (2045) 年には 78,222 世帯に留まる。
- 登録人口を世帯数で除して求めた平均世帯人員は、平成 27 (2015) 年の 1.91 人から平成 47 (2035) 年に 1.86 人まで低下した後、やや向上して平成 57 (2045) 年には 1.87 人になると見込まれる。
- 家族類型別にみると、高齢者単独世帯、世帯主が高齢者である夫婦のみ世帯の数は、増加傾向にあると見込まれる。

図表 8 世帯数の推移と将来見通し



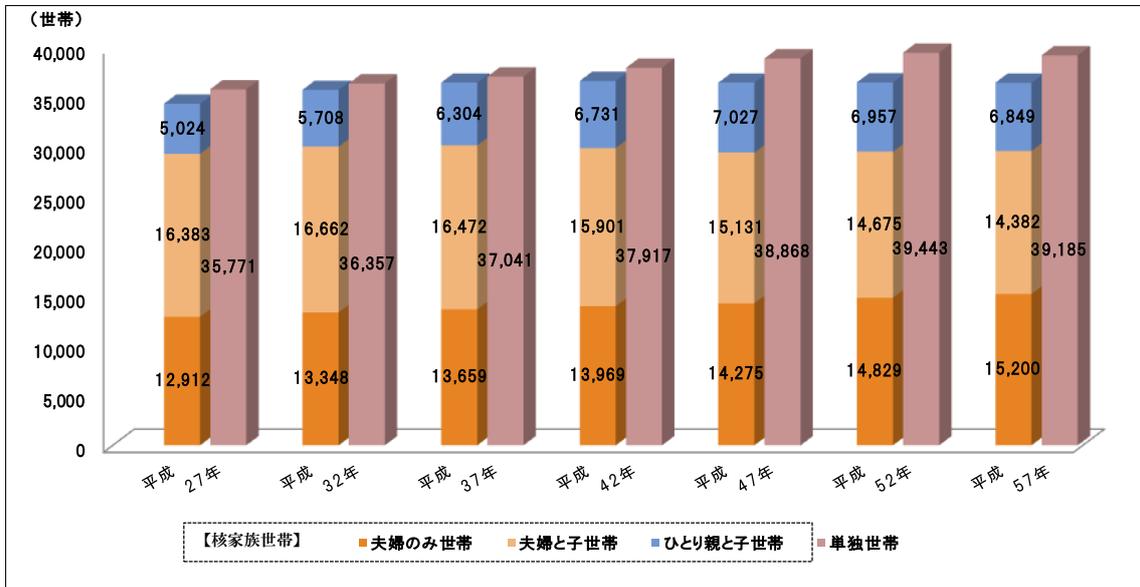
出典) 武蔵野市「武蔵野市の将来人口推計(平成26年～平成57年)」

図表 9 高齢者単独世帯数等の現状(全国・東京都・武蔵野市)

区域	総数		単独世帯				高齢夫婦世帯(夫65歳以上妻60歳以上の夫婦1組のみの一般世帯)	
	人口	(世帯)	(世帯)	(%)	うち 65歳以上の 高齢単身者 世帯 (世帯)	(%)	(世帯)	(%)
全国	128,057,352	51,950,504	16,784,507	32.3%	4,790,768	9.2%	5,250,952	10.1%
東京都	13,159,388	6,393,768	2,922,488	45.7%	622,326	9.7%	485,749	7.6%
区部	8,945,695	4,540,746	2,223,510	49.0%	459,968	10.1%	309,839	6.8%
市部	4,127,128	1,818,388	688,220	37.8%	158,360	8.7%	171,668	9.4%
武蔵野市	138,734	71,228	35,631	50.0%	6,895	9.7%	5,381	7.6%

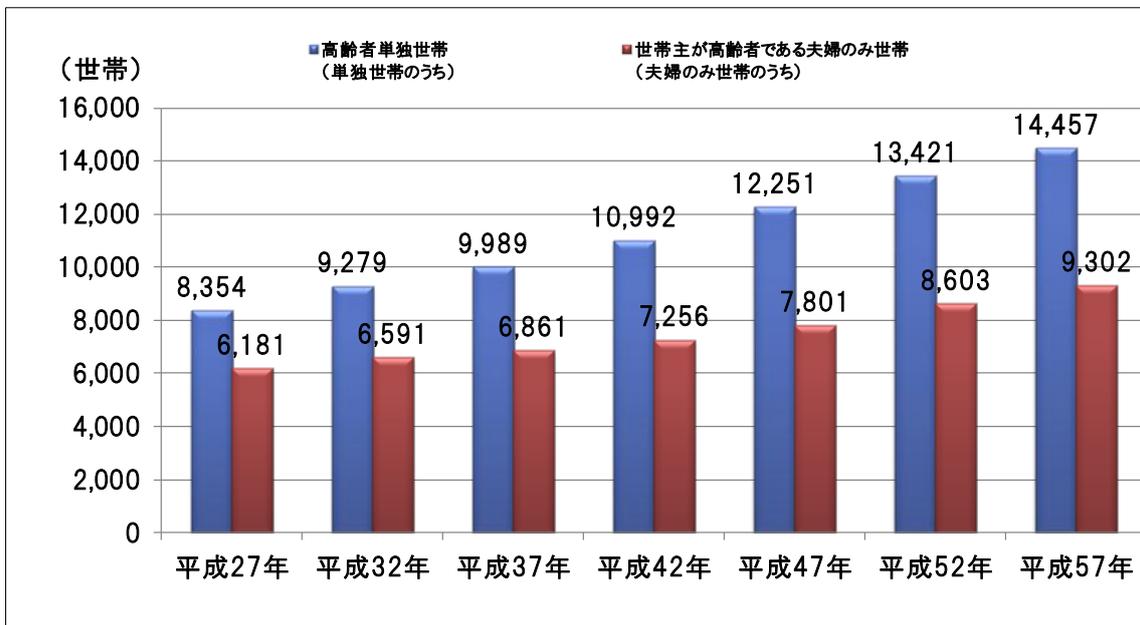
出典) 武蔵野市「武蔵野市高齢者福祉計画・第6期介護保険事業計画」、「平成22年国勢調査」より

図表 10 家族類型別世帯数の推移と将来見通し



出典) 武蔵野市「武蔵野市の将来人口推計 (平成 26 年～平成 57 年)」

図表 11 高齢者単独世帯数等の推移と将来見通し

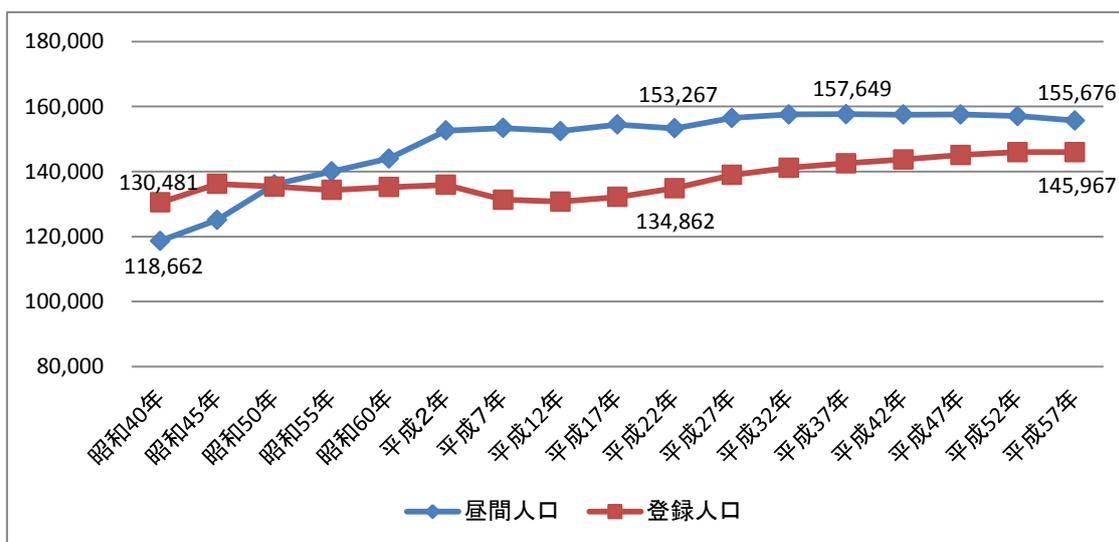


出典) 武蔵野市「武蔵野市の将来人口推計 (平成 26 年～平成 57 年)」

⑥ 昼間人口

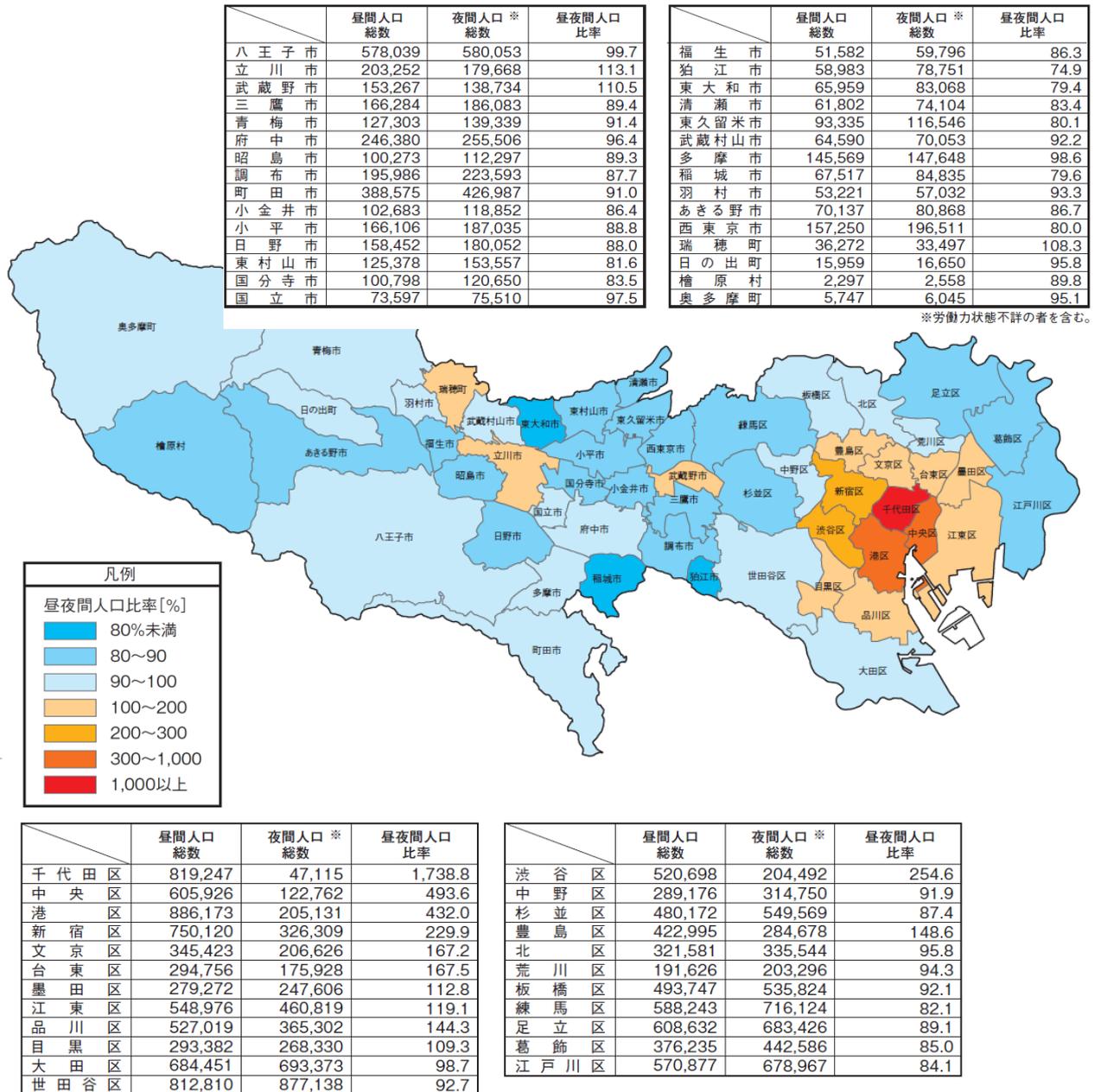
- 武蔵野市の昼間人口は、昭和 50（1975）年に登録日本人人口を上回った。その後も順調に増加していたが、近年は増減を繰り返して平成 22（2010）年には 153,267 人となっている。
- 今後の昼間人口は、横ばいで推移した後、減少を始め平成 57（2045）年には 155,676 人と見込まれる。また、登録日本人人口に対する昼間人口比は低下していくものと見込まれる。
- 武蔵野市は、市外へ働きに行く人よりも、市内に働きに来る人の方が多い（通学含む）ということであるが、これは吉祥寺商業圏を中心に事業所が集積しているためと推測される。
- また、武蔵野市内の創業比率は 3.19%と、都平均 2.06%を上回り全国的にも高い水準にある。（期間は平成 21 年～24 年、全国平均 1.84%、総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」より）

図表 12 昼間人口の推移と将来見通し



出典) 武蔵野市「武蔵野市の将来人口推計（平成 26 年～平成 57 年）」

図表 13 昼夜間人口比率



出典) 武蔵野市「平成 26 年版 武蔵野市地域生活環境指標」

(2) 人口問題に対する基本認識

■ 将来的な年少人口の減少

子どもは社会の希望であり、未来の力である。しかし、次代の社会を担う子どもの数が継続的に減っていく、いわゆる「少子化」は社会保障をはじめとする経済全般に影響を及ぼす深刻な問題である。加えて、子ども自身の健やかな育ちへの影響や将来的な地域コミュニティ機能の弱体化、まちの活力の衰退など、武蔵野市においても大きな影響を及ぼすことが危惧される。

■ 独居高齢者及び高齢者のみ世帯の増加

武蔵野市は、全国平均に比べて、ひとり暮らし高齢者の割合が高い状況にある。単身で生活している高齢者は、心身の状態に問題が発生した際、家族の支援を得ることが困難であり、社会的サービスの整備の充実は不可欠である。一方、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯を含めた老年人口の増加は、社会保障費の増加を招き、他の政策的経費を圧迫して財政の硬直化をもたらす恐れがある。

■ 生産年齢人口の減少

生産年齢人口の減少に伴って勤労所得のある人が減るということは、市税収入にも大きな影響を及ぼすため、現在の財政規模を維持できなくなる恐れがでてくる。

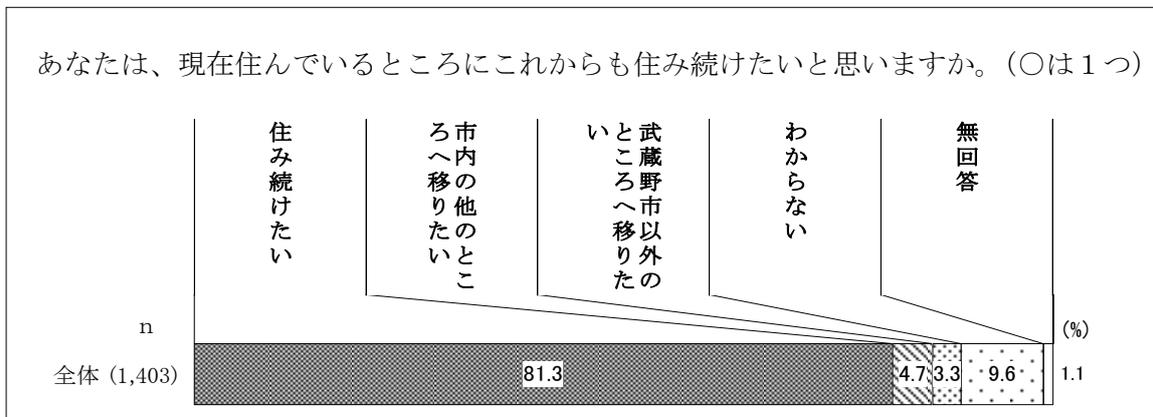
高齢者を支える働き手世代の割合の減少が、地域経済の縮小をもたらし、まちの活力が喪失していくという負のスパイラルに陥らないために、出産・育児で職場を離れた女性や元気な高齢者など、多様な人材の活用を積極的に促進していくことが必要となる。

3 人口の将来展望

(1) 将来展望の基礎となる市民意識調査

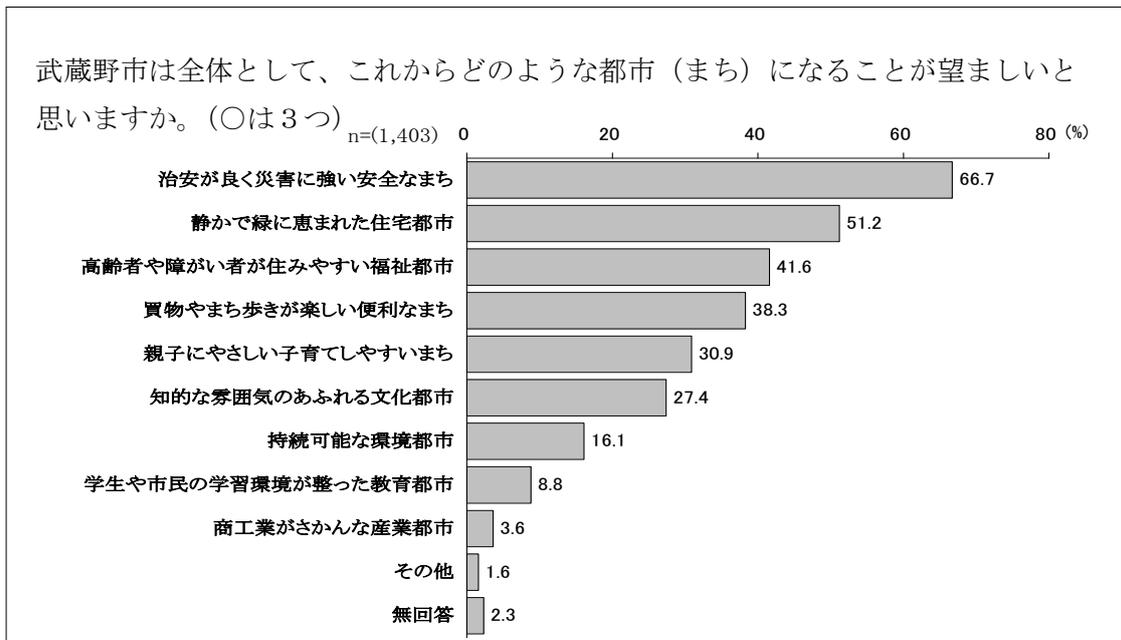
人口の将来を展望するにあたっては、まずは地域のニーズや課題を把握することが重要である。武蔵野市では、昭和 59（1984）年から長期計画の策定に合わせて「[市民意識調査](#)」を実施しているため、人口ビジョンにおいてもこの調査結果を基礎資料として活用する。

図表 15 定住意向



出典) 武蔵野市「平成 26 年度武蔵野市市民意識調査報告書」

図表 16 武蔵野市の将来像



出典) 武蔵野市「平成 26 年度武蔵野市市民意識調査報告書」

(2) 目指すべき将来の方向

- ◆ **子育て世代を地域社会全体で支え合い、妊娠、出産、子育ての希望が叶うまちを実現する。**

少子化の進行は親の就労状況や経済状況などにも影響を受け、一朝一夕に解決するものではないが、子どもたちが健やかに育ち、すべての子育て家庭が安心して子どもを産み、育てられる社会を実現することで、生産年齢人口の減少と将来的な年少人口の減少を克服する。

- ◆ **すべての市民が、いつまでもいきいきと健康に、住み慣れた地域で生活を継続できるまちを実現する。**

すべての市民が、生涯を通して住み慣れた地域で安心して過ごすことができるよう、地域生活に関わる人や組織が分野を越えて連携し、継続的で体系的な支援を行う支え合いのまちづくりを目指すことで、独居高齢者及び高齢者のみ世帯の増加などに対応していく。

- ◆ **個性輝くまちづくりを推進し、未来に希望が持てる持続可能なまちを実現する。**

すべての市民が安全で安心して生活できるように、また武蔵野市を訪れる人々が快適に過ごすことができるように、人にやさしい都市づくりを進めていく。「武蔵野市らしさ」のあるまちづくりを進めることで、まちの魅力を高め、武蔵野市を訪れたい、働きたい、住み続けたいと望む人を増やす。

(3) 人口の将来展望

すでに全国比で見ても人口密度の高い武蔵野市としては、大幅な人口増や急激な人口構成の変動は望ましくない。武蔵野市は、昭和 46 年度から「武蔵野市長期計画」を市政運営の基本として、計画的な行政運営を行ってきたが、この第一期の長期計画において、昭和 45 年国勢調査人口 136,726 人をふまえて、「人口の社会増をもたらすような政策はとらない」という方針を掲げ、超過密化に伴う生活環境の悪化を防いできたという実績が、今の武蔵野市の評価に至っている。また、市域の 80%以上を住居系用途地域に指定するなど、良好な住環境を守るため、計画的な土地利用を図ってきたことも今日の成果に結びついている。平成 26 年度の武蔵野市市民意識調査において、「静かで緑に恵まれた住宅都市」を望む割合が高いという結果が出ており、住環境の良さや生活の質の向上を求める声は、引き続き多い。

将来の人口については、「目指すべき将来の方向」を踏まえて施策を推進し、まちの魅力を高めていくことで、現状程度の水準を基本に長期的に安定した人口の実現を目指す。

なお、武蔵野市は東京圏を構成する自治体として、地方とパイを奪い合う「ゼロサム」ではなく、地方と東京圏がそれぞれの強みを生かし、日本全体を引っ張っていく「プラスサム」を目指さなければならない。首都東京が世界の主要都市のひとつとして十分な役割を果たせるよう、本市の特性を最大限生かしたまちづくりを進め、他都市と連携し、魅力ある自治体運営を行っていく。

武蔵野市人口ビジョン

平成 27 年 月

武蔵野市 総合政策部 企画調整課

東京都武蔵野市緑町 2-2-28

電話番号 : 0422-60-1801

ファクス番号 : 0422-51-5638